

ふくいの土地改良

254



「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2017 入選作品

「ぼくらのゆりかご田 生き物てんこもり!」 若狭町立三方小学校4年生共同作品

新年のごあいさつ …… 1 ~ 7

【インフォメーション】

平成30年度 農村振興局関係予算概算決定の
重点事項 …… 8 ~ 10

「第40回全国土地改良大会 静岡大会」
に参加 …… 11 ~ 12

「農業農村整備の集い」に参加 …… 13

要請活動報告 …… 13 ~ 14

平成29年度 土地改良区役職員技術研修会
を開催しました …… 14

「水土里ウォークin南越前」に行ってきました …… 15

「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2017
結果報告 …… 15

【連載】 土地改良区の運営基盤強化 3 …… 16

【インフォメーション】

水土里ネットふくい ホームページのリニューアルと
「水土里の宝箱」への投稿について …… 17

【不定期連載】 土地改良区だより
・坂井北部土地改良区
・足羽川堰堤土地改良区連合 …… 18

水土里ネットふくいの行事予定 …… 19

農業基盤整備資金利率のお知らせ …… 19





新年のご挨拶

水土里ネットふくい 会長 山崎 正 昭

新年あけましておめでとうございます。

平成30年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

会員ならび関係者の皆様におかれましては、お健やかに新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

また、日頃より農業農村整備事業の推進並びに本会の業務運営に格別のご支援とご協力をいただいておりますことに心より感謝とお礼を申し上げます。

昨年も7月の九州北部災害をはじめ、全国各地で多くの災害に見舞われました。本県においても、10月に相次いで上陸した台風第21号、22号の暴風雨により、甚大な被害が発生いたしました。被災されました方々には心からお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復旧が出来ますよう私どもも鋭意努力を致したいと思っております。

さて、農業・農村を巡る国内外の情勢は大きな転換期を迎え、「農政新時代」とも言うべき新たなステージにまさに突入しております。

ご承知のとおり、国においては、「農林水産業・地域の活力創造プラン」で示された4つの改革（①農地中間管理機構による農地の集積、②水田フル活用と米政策の見直し、③経営所得安定対策の見直し、④日本型直接支払制度の創設）を柱とする農政改革が進められております。本年度からは、新たな米の生産調整の仕組みの導入をはじめ、米の直接支払交付金「7,500円/10a」の廃止、更には日EU・EPAの大筋合意など、今後の水田農業の在り方が大きく変わろうとしています。

こうした状況の中、我々土地改良関係者には、国の進める農政改革に即し、担い手への農地集積による農業の競争力強化や国土強靱化に資する防災・減災対策を着実に推進することが求められています。昨年成立した改正土地改良法により、農業者の申請・負担・同意を原則求めない事業として新たに制度化された「農地中間管理機構と連携した農地整備事業」や「土地改良施設の突発事故やため池等の耐震化に向けた事業」などを積極的に活用しながら強い農林水産業の実現に向けてしっかりと取り組んでいかなければならないと考えております。

事業推進に必要な農業農村整備関係予算につきましては、先般閣議決定された平成30年度当初予算4,348億円（対前年108%増）と平成29年度補正予算1,452億円を合わせて、平成22年度に削減された予算を上回る5,800億円の予算を確保することができました。これは、本県をはじめ全国の土地改良関係者が一致団結して取り組んだ成果であり、農業農村整備事業の着実な推進が農政改革の実現に必要不可欠であるということでございます。

水土里ネットふくいと致しましても、これまで以上に国の施策・動向を注視しつつ、土地改良が農業・農村を担って行くとの気概を持って役職員一丸となり、また、会員の皆様と連携を図りながら努力して参る所存であります。引き続き、ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げまして、新年のご挨拶といたします。

平成30年 元旦



ワンランクアップした力強い農業の実現に向けて

福井県知事 西川 一 誠

水土里ネットふくいの皆様、新年明けましておめでとうございます。
日ごろから農業・農村の発展にご尽力されていることに深く感謝いたします。併せて、農政推進にご協力いただいていることに対し、厚くお礼申し上げます。

さて、去年は、コシヒカリの正統後継種「いちほまれ」が誕生し、福井の米が初めて首都圏市場に進出した記念すべき一年でした。本年は、この「いちほまれ」を日本一のお米にするため、生産量を拡大し、首都圏に加え中京・関西で本格販売を行っていきます。おいしいお米の産地として本県の認知度を高め、コシヒカリやハナエチゼンなど福井産米全体の販売増にもつなげていきます。

米の価格安定を図るためには、国の政策見直しにも適切に対応していかなければなりません。本県は、先人の努力により、圃場整備率が90%以上と全国トップレベルにあります。集落営農組織や認定農業者への農地集積を図るとともに、ICTを活用した先端技術の導入を進めていきます。

また、県農業再生協議会の一員として、JAと一体となって米の需給に対応し、米価の安定を図り、生産者が安心して営農を継続できるようにしていきます。

農業者の所得向上を図るためには、園芸への転換も重要です。去年は、JAから、学校給食を通じた県産野菜の生産流通拡大に関する要望を伺いました。子どもたちの郷里への想いを育み、食の大切さや農業に対する理解を深めていくためにも、安全・安心で新鮮な地場産品を食することができる環境をつくることは、我々の大きな使命であると考えます。県では、これまで排水対策による園芸の収量増加、植付機や収穫機導入による省力化、契約栽培の促進などを進めてきました。今後は、出荷期間を延ばすため、新品種導入や貯蔵施設の整備等をJAや市町とともに行っていきます。

また、嶺南を中心に進めてきた大規模園芸施設については、12か所で生産が進み、今年度末には約8億円の販売額を見込んでおります。今後は、県下一円に展開し、ミディトマトやイチゴ、青ネギなどの周年出荷による産地化を目指していきます。

生産条件の不利な中山間地域においては、独自の歴史や自然環境を活かし、付加価値の高い農業を実現していくことが重要です。百歳やさいやつるし柿など、特産物の生産技術の向上、こだわり米の生産など、市町やJAとともに生産者をサポートしていきます。

最後に、昨年10月の台風21号により、被災された皆様には心からお見舞い申し上げます。県では、市町、JAと協力し、今年春の野菜の作付けに間にあうよう風に強いハウスの建替えなどを支援しています。

年頭に当たり、皆様のご多幸とご活躍をお祈り申し上げます。新年のごあいさつとします。



年 頭 挨拶

北陸農政局長 印 藤 久 喜

明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃より農林水産行政の推進に御理解、御協力を賜り、とりわけ農業農村整備事業の推進に御尽力をいただいていることに厚く御礼申し上げます。

現在、農業・農村においては、農業を支えてきた昭和・一桁世代のリタイアが進行した一方で、意欲ある農業者による様々な取組が進展しており大きく変動しています。こうした中、北陸の水田農業を維持可能なものとするためには、次の三つの方向性が重要と考えております。

一つ目は、収益が上がる農業に取り組まないと次世代の担い手の確保が難しいため、水田をフル活用し、麦・大豆・飼料用米に加え、需要のある露地野菜などの高収益作物の導入を図ることです。

二つ目は、少子高齢化や食生活の変化に伴い、米の国内需要が全体として減少傾向にある中で、輸出用米が求められているほか、お弁当等の中食や外食用のニーズもあり、これらの需要を捉えた生産や販路開拓に積極的に取り組むことです。

三つ目は、地域農業の次世代の担い手を誰にするか、その担い手を応援する体制をどうするかなどを明らかにするため、地域での話し合いを促進することです。

さて、昨年9月に「土地改良法等の一部を改正する法律」が施行されました。改正の概要としては、①担い手への農地集積・集約化の加速化に向け、農地中間管理機構と連携した新たな基盤整備事業を創設し、農業者の費用負担なしに事業が実施できる制度や、②防災・減災対策の強化や事業実施手続きの簡素化といった使い勝手の良い事業制度を整え、また、ため池の耐震化や突発事故対応について、より一層円滑に実施できるようにしております。

さらに、土地改良区の在り方については、土地改良区の実態調査や意見交換を通じて現場ニーズの把握に努め、組合員資格の見直しや業務執行体制の強化等詳細な検討を進めた上で、土地改良法の一部改正に向けた作業に取り組んでいるところです。

また、昨年11月に政府のTPP等総合対策本部において、日EU・EPAの大枠合意を踏まえたTPP関連政策大綱の改定がなされました。新たな国際環境の下で、農林水産業を成長産業とするために必要な対策を実施することとしております。これらを受け、農業農村整備事業については、平成29年度補正予算及び平成30年度当初予算において必要な所要額を確保したところです。

結びに当たり、本年も引き続き農政の推進についてご協力とご支援をお願いするとともに、福井県土地改良事業団体連合会の皆様にとって実り多い年となりますことを御祈念申し上げ、年頭の挨拶と致します。



新年にあたって

全国土地改良事業団体連合会 会長 二階 俊 博

平成30年の年頭に当たり、土地改良に携わる全国の皆様に、謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

昨年もまた、多くの災害に見舞われました。7月には九州北部地方を中心として集中豪雨が、また、8月には台風5号が和歌山県に上陸、9月には台風18号が鹿児島県、高知県、兵庫県に上陸しました。さらに十月になって台風21号、22号と続けて発生し、沿岸部を中心に非常に大きな被害が発生しました。これらの自然災害は、予期せぬ形で発生し、いずれも多大な被害をもたらしております。被災された方々には心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧が出来ますよう、私どもとしても一体となって全力を尽くしたいと思いません。

さて、私は会長に就任以来、民主党政権時代に7割近く削減された状況であった予算をまずは復活させようと、「闘う土地改良」の重要性を訴え、予算獲得に向け本気になって取り組んで参りました。全国の皆様の大きな力によって、平成30年度当初予算は328億円の増の4,348億円、平成29年度の補正予算を合わせると、5,800億円と平成22年度の大規模削減を上回る水準となりました。ひとえに皆様方のご尽力の賜であると、心から感謝致します。

また、土地改良の代表を再び国会へ送り込むとの強い決意のもと、一昨年の参議院選挙では、見事進藤さんが当選を果たされました。この選挙活動を通じて、地方のすみずみまで「闘う土地改良」の精神が滲透したと実感いたしております。今後は、進藤さんの活動と連携して、更に一層の浸透が図られるよう念じております。

今、全国の農業農村では、過疎化・高齢化、担い手不足に加え、地域活力の低下などの課題が山積しております。また、コメなどを巡る先行き不安から、状況が一段と厳しくなっております。一方で、全国で農業水利施設の老朽化が進行しており、食料生産の増大、非食料用米への転換に支障を来すばかりでなく、国民の生命や財産にも多大な損害をもたらすのではないかと危惧されております。

このような状況の中、今年の通常国会では改正土地改良法が成立し、担い手への農地の集積・集約の加速化に向け、農地中間管理機構と連携した新たな基盤整備事業を実施できる制度が創設されました。また、防災・減災対策の強化や事業実施手続の簡素化といった使い勝手の良い事業制度も整えられました。

私たち土地改良担当者としましては、これら政府の動きと軌を一にして、これまで培ってきた技術と蓄積された経験を活用し、「闘う土地改良」を活動の基本におきつつ積極的に貢献していくことが重要であると考えており、加えて、水土里ネットが農業農村を守り、発展させていくことの重要性について広く国民の皆様にアピールし、共感を得ていく努力が必要と考えます。皆様と一体となって取り組み、所期の成果が得られますよう、引き続き奮闘して参りたいと思いません。

最後になりますが、本日、輝かしい年の初めに当たり、本年も農業農村が活力を得て、一層発展しますようご期待申し上げますとともに、本年が全国の皆様にとってよき年であり、日々健やかに過ごされますようご祈念申し上げまして、私の新年のご挨拶といたします。



新年のご挨拶

福井県農林水産部農村振興課 課長 木戸 敏 浩

新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

水土里ネットふくいの会員の皆様方には、新年を迎えられ、ますますご健勝のこととお慶び申し上げますとともに、日頃より農業農村整備事業の推進を通じ、本県の農業・農村の振興に多大なご尽力を頂いておりますことに、心よりお礼申し上げます。

「農政新時代」と言うべく農業・農村をめぐる情勢は新たな転換期を迎えています。○TPP及び日EU・EPAの大筋合意○平成30年度からの米政策の見直し○農業分野でのICT化による技術革新など国内外の様々な動向が注目されています。

また、国は農業の成長産業化に向けた改革の方針として「農業競争力プログラム」を策定し、その中で位置づけられた、「真に必要な基盤整備を円滑に行うための土地改良制度の見直し」に基づき、ほ場整備事業、農村地域防災減災事業、土地改良区の在り方について検討が行われ、昨年9月に改正土地改良法が施行されました。昭和24年の制定以降、様々な社会情勢の変化に応じて改正されてきましたが、今回は強い農林水産業の構築と次世代に美しく活力ある地域を継承するための16年ぶりの大幅な改正となったところです。

本県においては、「ふくいの農業基本計画」に基づき、競争力強化のための基盤整備、施設の長寿命化対策、農村地域の防災減災対策、多面的機能の維持・増進への支援を更に推進していくこととしています。今回の土地改良制度見直しにより手続きや仕組みは変わっても、土地改良区が中心となった地域の営農ビジョンに基づく整備計画や施設の保全計画策定に係る合意形成といった農業農村整備事業の進め方は従来どおり必要かつ不可欠と考えます。

土地改良区をはじめ関係者が地域一体となり農村協働力を発揮し、営農者を支え、地域資源を保全していくことがふるさと福井の元気な農業・農村社会の実現には必要です。

本年9月には“「福井しあわせ元気」国体・障害者スポーツ大会”が開催されます。来県される選手、関係者をはじめ多くの方々が元気な福井の農業・農村の姿に触れ、美味しい福井の農産物を味わい、しあわせな時間を過ごしていただくことも“おもてなし”です。

全国トップレベルの生産基盤を活かし、農地の集積・集約による大規模経営の推進、園芸導入による多角化などを進め、利益の上がる農業の実現や中山間地域の活性化に全力で取り組んでまいりますので、皆様の一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、皆様のご健勝と益々のご活躍をご祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

平成30年 元旦



引き続き「闘う土地改良」で全力

参議院議員 進藤 金子

新年あけましておめでとうございます。皆様方におかれましては、佳い年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

私も参議院議員として国政に参画して2回目の新年を迎えました。新年に当たり、常日頃からの皆様のご協力とご理解に心より感謝申し上げますとともに、心を新たにして皆様のご期待に着実に応えることができるよう努力してまいりたいと覚悟です。

昨年にも災害の多い年でした。7月の九州北部豪雨災害や秋田の洪水被害をはじめ各地で豪雨や台風による被害がありました。被災された方々には心からお見舞い申し上げますとともに、早期の復旧・復興に全力を尽していく必要があります。勿論、東日本大震災や原子力災害への対応についても、引き続きしっかりと対応していくことが重要です。また、気候変動に起因すると思われる豪雨災害等が頻発していることを踏まえ、防災減災対策の早期かつ着実な実施が喫緊の課題となっており、各地域の実情や特性を踏まえて機動的に対応していく必要があります。

土地改良にとって本年は、昨年に引き続き重要な年となります。

まず米政策大転換元年に対する取組です。第一に、本年から国が米の生産数量目標の各都道府県への配分を廃止することに対する取組です。本年からは、地方の再生協議会が独自に米の生産数量目標を定めることとなります。これに応じて、水田における飼料米、麦、大豆等の作付け目標を定め、市場動向等を睨みながら農家や地域の所得確保の最大化に挑むこととなります。この挑戦が成果として結実するには、水田の大区画化や施設管理の省力化等による生産コストの削減を基本として、戦略作物（麦、大豆等）や高収益作物（野菜等）の生産に欠かせない排水改良等の土地改良が不可欠であり、その役割は益々増大していきます。第二に、米の直接支払交付金（10a当たり7500円の交付）が平成29年度限りで廃止されることに対する取組です。これに関しては、基本的にここ3年の間で回復した米価の安定が最重要課題ですが、あくまでも一律の米価でなく、産地・銘柄ごとに消費者の需要動向に応じた生産を行うことが大切です。不足している業務用米に対して低米価で供給しつつ、更なる生産コストの削減を進め、総体として農家の所得が増加する取組が欠かせません。これについても、土地改良の果たす役割が極めて大きいものがあります。

そうした中で、水田作、畑作双方とも生産コストの削減を徹底することが必要となりますが、その削減分が農家の所得に確実に還元される仕組みの構築が重要となります。その一環として農家負担の少ない土地改良事業の実施が挙げられます。事業実施時の農家負担金を抑制するとともに、施設管理時の農家賦課金を節減する取組、これらは農家個々人の努力のみでは実現できないことであり、政策技術と現場技術の双方から、官民挙げてその知見を総動員する必要があると考えます。こうした視点から、新たに制度化された農地中間管理機構が借り入れしている農地について農業者の費用負担や同意を求めない基盤整備事業の活用など、昨年見直された土地改良制度等を有効に活用

していく必要があります。

次に予算です。今年度補正予算で昨年に引き続き1,452億円の追加がなされ、更に平成30年度当初予算政府案においても4,348億円(対前年328億円増)が計上され、補正と当初を合わせて5,800億円を確保するなど着実に予算が回復してまいりました。これは、まさに「闘う土地改良」の成果であります。私は、再三強調していますが、補正予算は、基本的に予算不足による継続地区の工期遅延を正常化する予算であり、当初予算は順番待をしている新規地区の早期の着工と完了に必要な安定的な予算です。こうした予算の性格と現場の適応性を踏まえた的確な予算要請も重要だと考えています。いずれにしても土地改良は、政策目標を達成するための手段です。その手段が予算不足により機能しなければ目標が達成できないのは自明なのであり、今後の予算要請に当たっては、目標を明らかにしつつ、予算不足がもたらす目標達成への影響を分かりやすく訴えていくことも必要と考えます。

往々にして課題の大きさと重さに伏し目がちになりますが、是非とも頭を上げ、目を見開き、微笑みをもって前に進みましょう。どんな困難も一人でなく皆で立ち向かいましょう。私自身、今年も引き続き「闘う土地改良」の先頭に立たせていただき、全力投球で皆様と一緒に諸課題の解決に向けて専心努力してまいり覚悟を新たにしているところです。本年が皆様にとってご家族共々素晴らしい一年となりますよう心からお祈り申し上げ、新年の挨拶といたします。



インフォメーション

平成30年度 農村振興局関係予算概算決定の重点事項

主要予算総括表 (単位:億円)

事 項	平成29年度 当初予算額	平成29年度 補正予算額	平成30年度 概算決定額	対前年度比
一般会計				
非公共事業	1,340	118	1,552	115.8%
公共事業	4,215	1,560	4,242	100.6%
農業農村整備事業	3,084	1,370	3,211	104.1%
農山漁村地域整備交付金	1,017	-	917	90.2%
海岸事業	33	-	33	100.0%
災害復旧事業等	82	190	82	100.0%
農村振興局予算総額	5,555	1,677	5,794	104.3%

平成30年度 農業農村整備事業関係予算 概算決定の概要 (単位:億円)

事 項	平成29年度 予算額	平成30年度 概算決定額 A	平成29年度 補正額 B	合 計 A + B
農業農村整備事業	3,320	3,709 (111.7%)	1,452	5,161 (155.5%)
農業農村整備事業(公共)	3,084	3,211 (104.1%)	1,370	4,581 (148.5%)
農地耕作条件改善事業(非公共)	236	298 (126.6%)	82	380 (161.4%)
農業水路等長寿命化・防災減災事業 (非公共)	-	200 (皆増)	-	200 (皆増)
農山漁村地域整備交付金 (農業農村整備分)	701	639 (91.2%)	-	639 (91.2%)
計	4,020	4,348 (108.2%)	1,452	5,800 (144.3%)

1 担い手への農地集積・集約化等による構造改革の推進

(1) 農地中間管理機構による農地集積・集約化

各事項の下段()内は、平成29年度当初予算額
【補正予算】は、平成29年度補正予算額

農地の大区画化等の推進 < 公共 >

農地中間管理機構が借り入れている農地について、農業者からの申請によらず、都道府県が、農業者の費用負担等を求めずに基盤整備事業を実施すること等により、地域の特性に応じた農地の大区画化・汎用化等を促進。

(農業農村整備事業で実施) 【補正予算】
1,110億円の内数 350億円
(1,034億円の内数)

農地耕作条件改善事業

農地中間管理機構による担い手への農地の集積・集約化や高収益作物への転換を推進するため、機構による担い手への農地の集積・集約化が行われる地域等において、農業者の費用負担の軽減を図りつつ、事業を実施すること等により、区画拡大等を促進

298億円
(236億円)

2 水田フル活用と経営所得安定対策の着実な実施

水田の畑地化・汎用化の推進 < 公共 >

平場・中山間地域等において、水田の畑地化や畑作物に軸足を置いた汎用化のための基盤整備を推進するとともに、転換に必要な水利用調整等を円滑に進めるため、地区の負担軽減等を図ることにより、高収益作物への転換を促進。

(農業農村整備事業で実施)
1,110億円の内数
(1,034億円の内数)

【補正予算】
457億円

3 強い農林水産業のための基盤づくり

(1) 農林水産基盤整備(競争力強化・国土強靱化)

農業農村整備事業 < 公共 >

農業の競争力強化や農村地域の国土強靱化を図るため、農地集積の加速化・農業の高付加価値化のための農地の大区画化・汎用化や水路のパイプライン化、老朽化した農業水利施設の長寿命化、耐震化対策や突発事故への対応等を推進。

3,211億円 1,370億円
(3,084億円)

農地耕作条件改善事業(再掲)

(既述につき省略)

298億円
(236億円)

農業水路等長寿命化・防災減災事業

農業生産活動の基盤となる農業水利施設の機能を安定的に発揮させるため、機動的かつ効率的な長寿命化対策及び防災減災対策を実施。

200億円
(-)

農山漁村地域整備交付金 < 公共 >

地方の裁量によって実施する農林水産業の基盤整備や農山漁村の防災・減災対策を支援。

917億円
(1,017億円)

(2) 農林水産関係施設整備

特殊自然災害対策施設緊急整備事業

火山の降灰被害に対応するための洗浄用機械施設等の整備やこれと一体的に行う用水確保対策等を支援。

2億円 1億円
(2億円)

(3) 畜産・酪農の競争力強化

草地関連基盤整備事業 < 公共 >

畜産経営規模の拡大や畜産主産地の形成に資する飼料生産の基盤整備を推進。

(農業農村整備事業で実施) 【補正予算】
69億円 95億円
(62億円)

4 農山漁村の活性化

(1) 日本型直接支払の実施

多面的機能支払交付金

農業者等で構成される活動組織が農地を農地として維持していくために行う地域活動や、地域住民を含む活動組織が行う地域資源の質的向上を図る活動に交付金を交付。

484億円
(483億円)

中山間地域等直接支払交付金

中山間地域等における農業生産条件の不利を補正するため、条件不利地域での農業生産活動を継続して行う農業者等に交付金を交付。

263億円
(263億円)

(2) 中山間地農業の活性化支援

中山間地農業ルネッサンス事業<一部公共>

傾斜地等の条件不利性や鳥獣被害の増加など中山間地農業が置かれている状況を踏まえつつ、地域の特色を活かした多様な取組を後押しするため、多様で豊かな農業と美しく活力ある農山村の実現や、地域コミュニティによる農地等の地域資源の維持・継承に向けた取組を総合的に支援。

400億円
(400億円)
(優先枠を設けて実施)

中山間地域所得向上支援対策

中山間地域において、収益性の高い農産物の生産・販売等に本格的に取り組む場合に、実践的な計画策定、水田の畑地化等の基盤整備、生産・販売等の施設整備等を総合的に支援。

【補正予算】
300億円
うち本体
100億円
うち優先枠
200億円

中山間地域等直接支払交付金(再掲)

(既述につき省略)

263億円
(263億円)

(3) 『農泊』の推進と農山漁村の振興

農泊の推進

増大するインバウンド需要等と呼び込み、農山漁村の所得向上を図るため、「農泊」をビジネスとして実施できる体制の構築、地域に眠っている資源の魅力ある観光コンテンツとしての磨き上げ等の取組や古民家等を活用した滞在施設、農林漁業体験施設等の整備を一体的に支援。
(この他、国有林において、多言語による情報発信、木道整備等を実施)

(農山漁村振興交付金で実施)
57億円
(50億円)

【補正予算】
3億円

農山漁村振興交付金

都市と農山漁村の共生・対流の推進や地域の活性化、薪炭など地域資源の活用等による山村の活性化、福祉農園の整備等による農福連携の推進、都市農業の多様な機能の発揮の促進、定住・地域間交流や雇用の増大を促進するための取組を支援。

101億円
(101億円)

【補正予算】
3億円

荒廃農地等利活用促進交付金

荒廃農地等を再生利用するための雑草・雑木除去や土作り等の取組を支援。

2億円
(2億円)

(4) 鳥獣被害防止対策とジビエ利活用の推進

鳥獣被害対策実施隊の増設・捕獲活動の強化、侵入防止柵の設置等による鳥獣被害防止とともに、ビジネスとして持続できる安全で良質なジビエの提供を実現するため、捕獲から搬送・処理加工が繋がったモデル地区の整備を支援するほか、森林被害防止のための広域・計画的な捕獲等を実施。

105億円
(97億円)

【補正予算】
13億円

(5) 再生可能エネルギーの導入・活用の促進

再生可能エネルギー導入等の推進

太陽光発電をはじめとした再生可能エネルギー事業によるメリットを地域の農林漁業の発展に活用する取組、農業水利施設を活用した小水力発電等に係る調査設計、地域のバイオマスを活用した産業化等に必要な施設整備等を支援。

(食料産業・6次産業化交付金等で実施)
21億円の内数
(10億円の内数)

「第40回全国土地改良大会 静岡大会」に参加



全国土地改良事業団体連合会 二階会長挨拶

去る10月25日(水)静岡県沼津市の「ふじのくに千本松フォーラム プラザ ヴェルデ」を会場に、全国土地改良事業団体連合会(以下全土連)・静岡県土地改良事業団体連合会(以下静岡県土連)の主催並びに農林水産省・静岡県等の後援により「第40回全国土地改良大会 静岡大会」が開催されました。大会テーマ「”ふじのくに”で語ろう 土地改良が創る豊かな水土里を」のもと、全国から土地改良関係者約4,200人が参集しました。福井県内からは22人の方がご出席くださいました。

式典では、まず静岡県土連の伊東真英会長が開催地として歓迎の挨拶を述べられ、続く主催者挨拶では全土連の二階俊博会長が、頻発する災害により被災された方々へのお見舞いの言葉に続いて「本年度は、補正予算を含めまして、大幅削減前と同額の予算を確保することが出来ました。土地改良は、着実に前進し、明るくなってきております。これもひとえに“闘う土地改良”の旗印の下、組織一丸となって闘った結果であり、皆様方のご協力のおかげであります。現在、来年度の予算編成作業が進められておりますが、来年度は、土地改良にとって、16年振りに改正した新しい土地改良法を基軸に、新たな展開を図る大きな節目の年となります。この年を実りあるものとするためには、やはり「闘って行く」。前進のためには、これしかありません。「闘う土地改良」は続きます。私自身、その先頭に立つことをお誓いし、また、併せまして皆様方の更なるご支援・ご尽力をお願いする次第であります。」と来場者へ一致団結を呼びかけられました。その後、川勝平太静岡県知事と大沼明德沼津市長による歓迎のことばと、谷合正明農林水産副大臣による祝辞がありました。(二階会長の挨拶は一部を抜粋しています。)



(中央)表彰会場での坪田 元専務理事

次いで行われた土地改良事業功労者表彰では、農林水産大臣表彰6名、農村振興局長表彰16名、全土連会長表彰45名に表彰状と記念品が贈与されました。本県からは長きに亘って土地改良事業の推進に尽力されてきた功績が称えられ、元福井県土地改良事業団体連合会専務理事である坪田洋次氏が全土連会長表彰の荣誉に輝いています。

続いて基調講演として、農林水産省農村振興局室本隆司次長から、静岡県の土地改良の歴史と未来に向けた土地改良の方向性についてのお話がありました。

また静岡県の優良事例紹介として、清水農業協同組合の柴田篤郎代表理事組合長より「JAしみずにおける農業農村整備取組事例」の紹介と、農業生産法人 遠州森 鈴木農園株式会社の鈴木晃会長より「水田を3倍活用した魅力ある農業の展開」と題して、生産者・経営者として考える、これからの農業モデルの紹介がありました。

大会宣言は、静岡県東部稲作研究会会長であり、JA御殿場青壮年部委員長でもある横山泉氏が力強く朗読し、拍手で採択されました。

その後、大会旗が次期開催地である宮城県土地改良事業団体連合会へ引き継がれ、伊藤康志会長が開催への意気込みを述べられました。

最後に閉会挨拶があり、第40回土地改良大会 静岡大会が幕を閉じました。



福井県参加者 集合写真

【大会宣言】

日本一高い山、富士山。日本一深い海、駿河湾。燦々と降り注ぐ太陽。富士山や南アルプスの山々等がもたらした肥沃な土壌と豊かな水。

これらの恵みは太平洋の海の幸まで及び、造れないものは何もないほどに恵まれた静岡県において、農業は、人と人が出会い、触れ合いながら自然の恵みを受ける安心できる産業であります。

私たちは、心を一つにして力を合わせ、大地を耕しながら友を作り、家族を作ることによってつながっています。

しかしながら、生産額の減少や国際競争の荒波に直面する農業の現状は、農業の担い手の減少や耕作放棄地の拡大など、農業構造の変化が進み、その対策が急務となっています。

今後、若い人達が希望を持って農業に従事できる環境を地域の力で整え、農山村の活力を向上させることが喫緊の課題であります。

先の通常国会において「農業競争力強化支援法案」や「土地改良法等の一部を改正する法律案」をはじめ農業改革関連8法案が成立しました。

若い担い手が夢や希望を持てる新たな日本の農業を築くためには、競争力を備え、消費者ニーズに合致した質の高い農業を支援する産業政策と併せて、農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を促進する地域政策が相乗的に効果を発揮する必要があります。

そのために、農山村地域の基幹産業として成長を続ける農業である「経済」、人と自然との共生により創造・継承される自然景観等である「環境」、自立と多様な主体の協働力に支えられた地域コミュニティである「社会」の、それぞれに持続性が確保された「強く、美しく、活力のある農業農村の創造」に努めていかなければなりません。

本日、ここに集う私たち「水土里ネット」は、「”ふじのくに”で語ろう 土地改良が創る豊かな水土里を」を合言葉に、農山村の土台を創る「土地改良」にしっかり取り組んでいくことを、ここ静岡の地から高らかに宣言します。

「農業農村整備の集い」に参加



挨拶をされる二階俊博全土連会長

去る11月15日(水)午後1時半から、東京都千代田区「シェーンバッハ・サボー」を会場に、全国から約1,200名の土地改良関係者が集まり「農業農村整備の集い 一農を守り、地方を創る予算の確保に向けて」が開催されました。福井県からは16名が参加しています。会場には、齋藤健農林水産大臣をはじめ多数の国会議員、農村振興局幹部ら関係者が参集し、盛大に開催されました。

「情勢報告」や「事例発表」が行われた後、要請書案文が満場一致で採択され、一同が予算確保への積極的な活動を約束し、ガンバロウ三唱で幕を閉じました。集いの終了後、農林水産省、財務省、復興庁、各県選出国会議員等に対して、参加者が要請活動を行いました。



要請活動報告

県内各農業農村整備事業推進協議会 合同要望・提案活動



要請書の説明を受ける、山崎正昭参議院議員

去る11月16日(木)、福井県内の5管内ごとに組織されている農業農村整備事業推進協議会から土地改良区の理事長らが出席し、平成30年度当初予算の確保に向けて要請活動を行いました。福井県土地改良事業団体連合会からは廣畑佐一副会長と事務局が参加しています。

今回は、競争力強化に向けた生産基盤の整備の推進、農業水利施設の長寿命化対策の推進、防災減災対策の推進、農業・農村の多面的機能を維持・増進する活動、国営造成施設等の管理体制整備の継続支援の5項目を重点事項として、必要な予算の確保を求める要望書を携え、県選出国会議員をはじめ、農村振興局幹部へ要請活動を行いました。



予算について説明される、緒方調査官

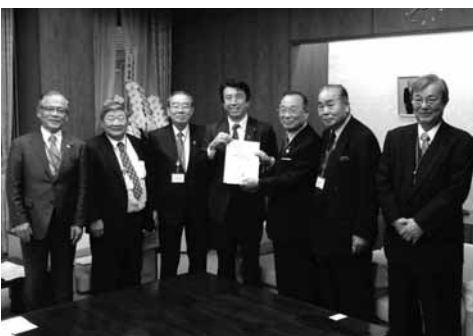
また、要請活動終了後には、農村振興局整備部設計課 緒方和之調査官より、平成30年度予算概算要求の概要について説明を頂き、県内における農業問題等について意見交換を行いました。

北陸四県土地改良事業団体連合会協議会 中央要請



宮腰内閣総理大臣補佐官 へ要請

去る11月14日(火)、15日(水)、北陸四県土地改良事業団体連合会協議会は各連合会から役職員が出席し、農業農村整備事業推進に関する要請活動を行いました。福井県土地改良事業団体連合会からは山崎正昭会長と廣畑佐一副会長、事務局が出席しました。



齋藤農林水産大臣 へ要請



自民党 二階幹事長 へ要請

14日には、宮腰光寛内閣総理大臣補佐官をはじめ、齋藤健農林水産大臣、農林水産省幹部、農村振興局関係部局に対して、また、15日には自由民主党二階俊博幹事長をはじめ、財務省の岡本薫明主計局長、財務省幹部に対して、各県の現状を説明すると共に平成30年度予算の確保について強くお願いしました。

平成29年度 土地改良区役職員技術研修会を開催しました



開会挨拶をする廣畑副会長

去る12月15日(金)、午前10時より坂井市丸岡町の福井県産業情報センターを会場に、「平成29年度 土地改良区役職員技術研修会」を開催しました。当日は、県内の土地改良区関係者ら約160名もの参加がありました。

今回の研修は、本会会員の技術力向上と新たな見識を広める機会を設けたいとの思いから企画したのもので、カリキュラムのとおり幅広い内容となりました。

今回、講師をお願いした筑波大学の石井敦教授は、研修前に福井入りし、2日間、県内の土地改良事業を契機として設立した生産組織の取組・現状について視察されました。本研修会では、改正土地改良法を踏まえた今後の圃場整備の進め方、効果等について、視察した県内事例も紹介しながら講義されました。参加者にとっても大変分かりやすく、興味ある内容となったようでした。

カリキュラム

10:10～11:00	改正土地改良法について	福井県農村振興課 主任	宮下 徹
11:00～11:50	土地改良区と多面的機能支払交付金について	北陸農政局農地整備課 多面的機能支払推進室長	松井貞史

< 昼 食 >

13:00～14:30	改正土地改良法による新たな圃場整備について	筑波大学生命環境系 教授	石井 敦
14:40～15:40	水田が育むふくいの生き物について	福井県自然環境課 主事	佐野沙樹

「水土里ウォークin南越前」に行ってきました!



参加者ど「さとりゅう」のラジオ体操

去る10月14日(土)「水土里ウォークin南越前」が開催されました。このイベントは、ウォーキングを通じて農業用水の役割や大切さについて認識を深めてもらうため、ふくい水土里の路ウォーキング実行委員会と福井県の主催で開催されています。当会も協賛するとともにスタッフとして協力しています。今回で14回を迎えるこのイベントには、県内各地から191人の方が参加されました。



八乙女頭首工に関する、日野川土地改良区の職員の説明を聞く参加者

朝方は、天気心配されていましたが、ウォーキングには心地いい絶好の気候となりました。開会式会場である今庄サイクリングターミナルには、福井しあわせ元気国体のキャラクター「さとりゅう」が現れ、会場を盛り上げていました。開会挨拶や参加者による完歩宣言等の後、参加者の皆さんは3班に分かれてスタートしていきました。

今回のコースは、八乙女頭首工で折り返して今庄宿を通り今庄駅がゴールの、全長7km。例年よりも距離が長めでしたが、健脚自慢の参加者の皆さんは悠々とゴールの今庄駅に到着され、「いちほまれ」のおむすびと、おろしそばに舌鼓を打っていました。

来年は、若狭地域での開催が決定しています。皆様のご参加をお待ちしています。

「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2017 結果報告



9月12日(火)を締切に作品をご応募いただきました「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2017の審査が10月11・12日に実施され、全国土地改良事業団体連合会より審査結果の報告がありました。今回は、県内から327点の応募がありました。今号より、受賞作品が表紙を飾ってまいりますので、お楽しみに。

賞	学校名・学年・氏名		タイトル	応募団体	
入 選	福井市文殊小学校	4年 松浦小夏	農作業風景	足羽文殊土地改良区	
	若狭町立三方小学校	4年 共同作品	ぼくらのゆりかご田 生き物てんこもり!	福井県土連	
	鯖江市片上小学校	5年 禿氏恵信	ぼくの大好きな片上	福井県土連	
団体賞	水土里ネットふくい会長賞	鯖江市片上小学校	5年 藪下睦巳	お米作りの一年	福井県土連
	足羽川堰堤土地改良区連合理事長賞	福井市六条小学校	4年 木下怜奈	みんなでがんばったよ	足羽川堰堤改良区連合
	足羽文殊土地改良区理事長賞	福井市文殊小学校	4年 水野嵩大	用水路にかかるパイプ	足羽文殊土地改良区

土地改良区の運営基盤強化 ～ 施設・財務管理強化対策 ～

【 第3回 複式簿記の仕組みと流れ 】

前回は複式簿記の導入にあたってのポイントについてお知らせしました。
今回は、まず知っておくべき、複式簿記の流れについてご説明します。

複式簿記の仕組み

複式簿記は、全ての取引を資産、負債、正味財産、収入、支出のいずれかに属する勘定科目を用いて借方(左側)と貸方(右側)に同額となるよう記入する仕訳手法により記録、計算、整理する方法です。

複式簿記の仕訳

	増加 / 減少	
	借方(左側)	貸方(右側)
資 産	増 加	減 少
負 債	減 少	増 加
正味財産	減 少	増 加
収 入	減 少	増 加
支 出	増 加	減 少

ここがポイント!

現金が増えれば左に現金!減れば右に現金を!

収入が発生した場合、複式簿記では現金を左に書き、左の表を参考に発生原因を右に書きます。

支出の場合はこの逆で現金を右に、発生原因を左に書きます。

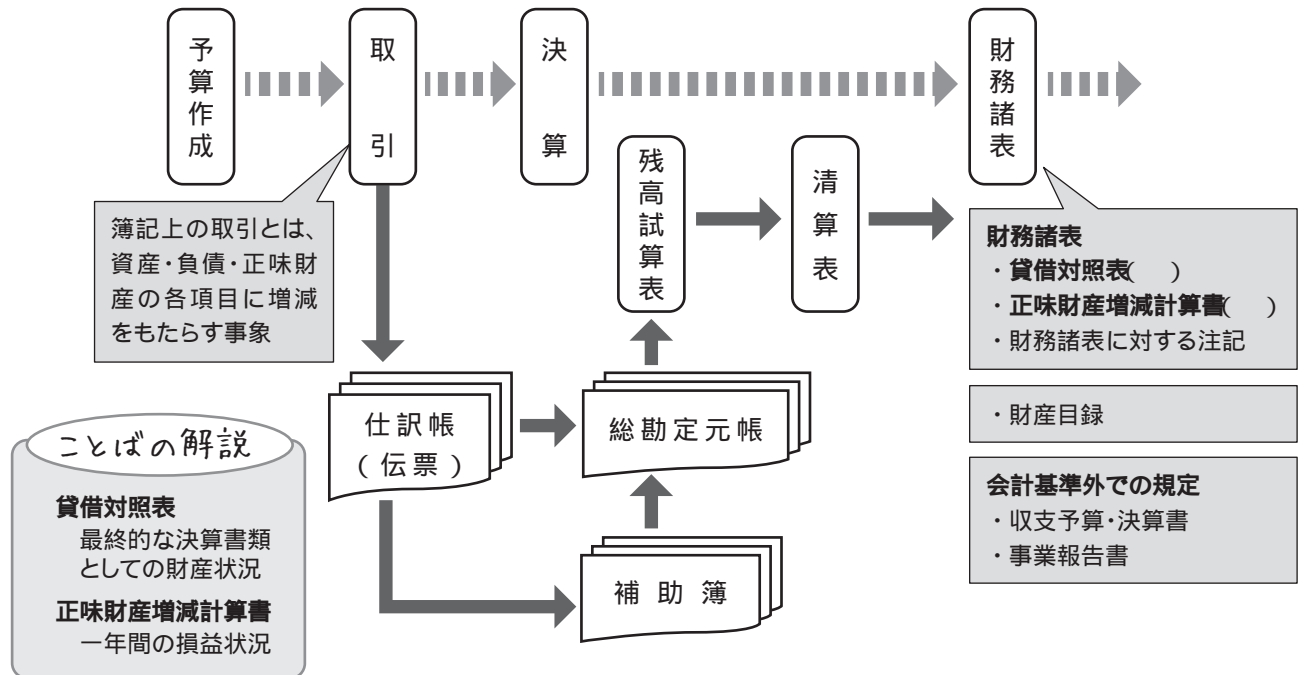
例えばこんな時...

- ・公用車を買った
- ・お金を借りた
- ・賦課金が入った
- ・給料を払った

借方(左)	貸方(右)
資 産	現金
現金	負 債
現金	収 入
支 出	現金

複式簿記会計の流れ

土地改良区の会計は以下のような流れをたどり、まとめられます。



インフォメーション

水土里ネットふくい ホームページのリニューアルと 「水土里の宝箱」への投稿について

平成30年4月、水土里ネットふくいのホームページをリニューアルします。

今回、新たな試みもスタートします。土地改良関係者だからこそ気が付くような土地改良施設をはじめ、県内の農村のすばらしい景観や風習等を集め、「水土里の宝箱」と題して紹介していこうと考えています。施設紹介だけでなく、週末に地域でこんな催しがあった、今日の田んぼの風景がきれいだった、などなど、皆様からの投稿をお待ちしています。

気軽に投稿してみよう！

4月以降、ホームページから「水土里の宝箱投稿シート」をダウンロードし、必要項目を入力、画像データとともにメールで送信願います。

下記の項目をメール本文に入力いただければ、受け付けいたします。

送信いただいた情報は、投稿内容について審査を行い、採用されれば水土里ネットふくいホームページに掲載されます。投稿の際には、必ず所属と氏名を記載願います。ただし、ホームページへの氏名の掲載は、本名か匿名、若しくはペンネームをお選びください。

水土里ネットふくいへ提供してほしい情報！

投稿者に関する情報

所属・氏名・電話番号

< 投稿内容に関する確認がとれる連絡先 >

投稿者の掲載に関する情報

氏名・匿名・ペンネーム

< 投稿者に関して、どの掲載を希望するか >

投稿内容（ は添付・ ~ はメール文面）

①画像データ（メイン1枚・サブ3枚の最大4枚）

②分類（土地改良施設か農村風景を選択）

③タイトル

④施設名称（撮影対象）

⑤エリア・場所（施設、撮影場所の具体的な所在地）

⑥撮影日

⑦概要（土地改良施設や農村風景の説明）

分かる範囲
でご記入下
さい。

田んぼの中にプラネタリウム？
【国営かんがい排水事業 九頭竜川下流地区 十郷用水路調圧水槽】



分類 土地改良施設
エリア 坂井市
場所 坂井市坂井町定旨

概要 坂井市丸岡町の海拔35mの鳴鹿頭首工から、海拔4mの田んぼへ水を自然圧で送るバイブラインのシステム。そこには高い水圧が生じるために、高さ34mの水槽により圧力を調整して送水しています。

撮影日 H30.00.00
投稿者 ペンネーム

自然再生のシンボル
【コウノトリ】



分類 農村風景
エリア 越前市
場所 越前市白山地区

概要 越前市白山地区で大きな鳥を発見しました。「これがコウノトリか？」思わず、バシャ！

撮影日 H30.00.00
投稿者 ペンネーム

お問い合わせ先

福井県土地改良事業団体連合会 総務部 総務課（電話：0776-23-7777）

土地改良区だより 2017年10月・11月

土地改良区の活動等についてお知らせします。土地改良区の情報进行募集中です。

【坂井北部土地改良区】

子どもたちと農業体験! 【10月13日(金)】

金津こども園の園児22名が、6月に植え付けたサツマイモの収穫に坂井北部丘陵地にやってきました。当日は、この活動に賛同するNPO法人「美しい田園21」や北陸農政局、福井県坂井農林総合事務所等からも約20名が集まり、イモ掘りの準備や子どもたちの補助等に協力されました。

自分の名札をたてておいたサツマイモを収穫した後も、子どもたちの手で全て掘り起こしてもらいました。今回は、畑で昆虫が沢山見つかかり、子どもたちは大騒ぎ。中には、虫が苦手な子もいましたが、少しずつ慣れた様子で、観察したり、触れられるようになっていました。

自分で植えて収穫したサツマイモを食べて実りを感じるのはもちろんのこと、身の回りにたくさんの命があることを体験できた一日になったのではないのでしょうか。



いよいよスタート!



イモ掘り真っ最中



最後はみんなで集合写真

【足羽川堰堤土地改良区連合】

足羽川用水 世界かんがい施設遺産登録記念 ウォーキング大会!! 【11月3日(金)】

平成28年11月に世界かんがい施設遺産に登録された「足羽川用水」。この歴史的・技術的・社会的価値を県内外の方々に広く周知し、継続的な施設の維持保全や施設を活用した地域活動に向けて住民の意識高揚を図る広報活動を推進していくことは、今後の土地改良施設の維持管理やPRにおいても重要です。

今回、その一環として、どうすれば足羽川用水をはじめ地域の魅力である「お宝」を参加者に感じていただけるか。また、施設の管理者としては、どうすればより伝わるか実践・検証するウォーキング大会が開催されました。

当日は、56名の参加者が6つの班に分かれ、各班をスタッフがガイドしながら足羽川頭首工から堂田川、東郷駅までの約4kmを歩きました。美しい景観や歴史ある建物、農業用水施設では、足を止め説明をしながら、ゆったりと見学。参加者からは見どころ満載のコースに次回開催の声も聞かれました。スタッフも今回得た課題やアイデアは、今後の広報活動の糧になると決意を新たにしていました。



これから歩く用水の分水の様子を見てスタート!



せせらぎの音に耳をすまします



堂田川では歴史やまちづくりについて伺いました

行 事 予 定

2月 6日(火)	第133回監事会	総務課
2月 17日(土)	第212回理事会	総務課
2月 28日(水)	換地計画実務研修会 (会場:福井県国際交流会館)	土地改良課
3月 17日(土)	第60回通常総会 (会場:福井県自治会館)	総務課

本誌の発行日によって記載している行事が終了している場合や、記載がない行事が実施される場合、また詳細が未定のものの変更される場合がありますのでご了承下さい。

農業基盤整備資金利率のお知らせ

平成30年1月25日付けの日本政策金融公庫 農林水産事業の農業基盤整備資金貸付利率についてお知らせします。
問い合わせ先:(株)日本政策金融公庫福井支店 TEL:0776-33-2385 HP: <http://www.jfc.go.jp/a/>

(単位: %)

区 分		融資期間にかかわらず	融資期間別 (一例) (%)			
			5年	10年	15年	20年
補助事業	県 営	0.45	—	—	—	—
	団体営	0.30	—	—	—	—
非 補 助	一 般	0.30	—	—	—	—
	利子軽減	0.30	—	—	—	—
災 害 復 旧		—	0.20	0.20	0.30	0.30

水土里ネットふくい(福井県土地改良事業団体連合会)の連絡先

〒910-0014 福井県福井市幾久町8番17号 (FAX) 0776-24-1400 <http://www.midorinet-fukui.jp>

総務課、企画開発課 (TEL) 0776-23-7777 soumu@midorinet-fukui.jp

土地改良課 (TEL) 0776-23-7775 jigyo4f@midorinet-fukui.jp

(管理・情報担当、水土保全・基幹水利・多面的機能支払交付金担当、地籍・換地担当、水土総合強化センター)

計画設計課
環境計画課 (TEL) 0776-23-7776 jigyo3f@midorinet-fukui.jp

(農村環境分析センター)

嶺南事務所 〒919-1556 福井県三方上中郡若狭町玉置11-58 (TEL/FAX) 0770-57-2727

